

栄養士校外実習にみる意識の変化 - 栄養学専攻の場合 -

宇和川 小百合, 色川 木綿子
(平成21年9月30日受理)

Changes in Views during Dietitians' Practical Training - The Case of Food and Nutrition Majors -

UWAGAWA, Sayuri and IROKAWA, Yuko
(Received on September 30, 2009)

キーワード：栄養士, 校外実習, イメージ
Key words : dietitian, practical training, image

1. はじめに

平成14年4月から改正栄養士法が施行¹⁾され、管理栄養士・栄養士養成施設でも、新しいカリキュラムが始まった。管理栄養士業務はより専門的な知識等が求められ、管理栄養士国家試験受験資格においても栄養士免許取得者には実務経験(4年制では1年、2年制では3年)が必要になった。また、健康増進法の施行(平成15年)や日本人の食事摂取基準(2005年版)の策定²⁾、食育基本法の制定³⁾、食事バランスガイド⁴⁾(以上、平成17年)、健康づくりのための運動指針2006(エクササイズガイド2006)の策定(平成18年)、特定健康診査・特定保健指導の実施⁵⁾(平成20年)など栄養士を取り巻く環境も時代のニーズとともに目まぐるしく変化している。

全国の4年制の栄養士養成施設をみると、栄養士業務の就職者数は、平成18年度で28.3%⁶⁾と低く、管理栄養士養成施設の栄養士業務就職者数(56.1%)と比較すると、栄養士業務就職者数は約半分である。また、前年度(39.2%)と比較すると10%以上減っていることがわかる。本学において、栄養士業務就職者は栄養学専攻で約40%⁷⁾(平成18年度)と全国平均を大きく上回っているものの、管理栄養士に社会的ニーズが重きをおいていることから、希望する専門業種に学生が就くことはなかなか難しい状況にある。

このような状況の中で栄養士を目指す学生の意識を知ることが学生を指導する上で有効であると考えた。前回⁸⁾、短大生において栄養士や校外実習に対する意識の変化を調査したが、これら、栄養士に対する学生の意識調査は数が少なく^{9)~20)}、また大学生(4年制)に対する調査はさらに

数が少ない。そこで、今回は4年制で栄養士免許を取得する本学栄養学専攻の学生について同じように調査・検討を行い、栄養士実習に一考察を加えることとする。また、前回調査⁸⁾した短大生の調査とも比較した。

2. 調査対象および方法

- 1) 調査対象：東京家政大学栄養学専攻(栄養士課程必修)履修者 103名
- 2) 調査時期：栄養学専攻(以下「学部」と記す)は入学してすぐの1年次と4年次の栄養士資格取得のための校外実習終了後の2回、同一対象者に対して調査を行った。調査時期は、1年次 平成16年4月、4年次 平成20年1月に行った。
- 3) 調査方法：質問紙法による調査用紙を配布し、その場で回答させて回収した。(回収率100%)
- 4) 調査内容
(1)入学時：①栄養学科を選んだ理由、栄養士に興味を持った時期ときっかけ、身近に栄養士として働いている人がいるか ②栄養士資格取得と理由、なりたい業種、栄養士のイメージ、予想する仕事内容 ③実習に行きたい施設と実習期間、実習でしたい内容、実習に必要なと思う事、実習に対する気持
(2)校外実習終了時：①栄養学科で学んだ感想 ②栄養士資格取得と理由、なりたい業種、栄養士のイメージ、仕事内容 ③実習したい施設と実習期間、実習でしかなかった内容、実習に必要なと思う事、実習を終えた感想
- 5) 集計方法
マイクロソフトExcel統計を使用し、クロス集計、 χ^2 検定等を行った。

3. 結果および考察

1) 入学時の意識

入学時の意識について、栄養学科を選んだ理由（複数回答）としては、表1のとおりである。「栄養・食べ物に興味があったから」（82.5%）、「生活に生かせそう」（30.1%）、「資格がとれる」（29.1%）の順であった。圧倒的に、栄養や食べ物に興味があって入学してきた学生が多いことがわかる。前回調査した短大生と比較すると順位は同じであるが、その意識は学部の方が高いことがわかる。

また、栄養士の仕事に興味を持った時期ときっかけをみると、意識した時期は、圧倒的に「高校生」のときが多い。興味を持ったきっかけは「料理が好きだから」（38.8%）、「大学入試で調べていて」（28.2%）、「その他」（18.5%）、「自分やまわりの人が身体を悪くして」（16.5%）という順になっている。「その他」では具体的に記入があり、「食に興味があったから」「学校で家庭科の授業を受けて」「親に勧められて」を主に挙げている人が多かった。

表1 栄養学科・栄養科を選んだ理由

	人 (%)
栄養・食べ物に興味があった	85 (82.5)
生活に生かせそう	31 (30.1)
資格がとれる	30 (29.1)
家庭科が好き	17 (16.5)
理系が好き	5 (4.9)
まわりにすすめられた	5 (4.9)

これらを表2のように、意識した時期ときっかけをクロスすると、高校生の時期では「料理が好きだから」と「大学入試で調べていて」が同様にきっかけとなっているが、大学受験直前、中学生の時期に興味を持ったきっかけは「料理が好きだから」が多い。前回調査では、「栄養士の仕事を見たり、接したりすることがあったので」というきっ

表2 栄養士の仕事に興味を持った時期ときっかけ

	人 (%)					
	大学受験直前 (n = 6)	高校生の頃 n = 72	中学生 n = 18	小学生 n = 6	その他 n = 1)	
大学入試で調べていて	2 (25.0)	26 (29.9)	1 (5.0)	0	0	*
身近に栄養士をしている人がいて	0	5 (5.7)	0	2 (25.0)	0	
自分の家の仕事に関係があるので	0	0	0	0	0	
栄養士の仕事を見たり、接したりすることがあったので	0	5 (5.7)	2 (10.0)	2 (25.0)	0	
T V・マスコミの影響で	0	3 (3.4)	0	0	0	
料理が好きだから	3 (37.5)	26 (29.9)	8 (40.0)	3 (37.5)	0	
自分やまわりの人が身体を悪くして	1 (12.5)	12 (13.8)	3 (15.0)	1 (12.5)	0	
その他	2 (25.0)	10 (11.5)	6 (30.0)	0	1 (100.0)	*

* p < 0.05

** p < 0.001

かけも多かったが、今回の調査ではそれほど多くはない。小学校や中学校では学校給食や授業で学校栄養職員と接する機会を得て、そこから興味を持つのではないかと思われるが、意外と少なく興味を持つきっかけにはならなかったようである。

これらのうち、「大学入試で調べていて」「その他」(P < 0.05) の2項目は意識した時期と有意に差が認められた。また、自分の身近に栄養士として働いている人がいる割合は、全体の12.6%と少ない。具体的に職種を聞くと、「病院」や「学校」が挙げられているが数は少なかった。身近に栄養士として働いている人がいると回答していても具体的な職種は未記入が多く、学生からすると栄養士の具体的な内容まではわかりにくく、職種のイメージがしがたい職業なのではないかと推察された。

2) 栄養士の資格について

栄養士の資格をとりたいか尋ねた結果（表3）、入学時には、栄養士資格を「とりたい」が100.0%である。今回、対象の学生は栄養士資格取得が卒業条件になっているということもあるが、資格目的の意識は高いといえる。これに対して、校外実習（以下、実習）後は、栄養士資格を「とりたい」が96.1%、「とりたくない」が3.9%であった。また、資格の種類をみると、入学時では「栄養士のみ」（44.7%）、「管理栄養士もとりたい」（55.3%）であるが、実習後では「栄養士のみ」（59.8%）、「管理栄養士もとりたい」（40.2%）と結果が逆転している。これは実習を4年次に行うため、それまでの授業などで自分の適不適を見極め、卒業後の進路も決まっていたり、先にも述べたとおり

表3 栄養士資格取得

	人 (%)	
	はい	いいえ
入学時	103 (100.0)	0
校外実習後	99 (96.1)	4 (3.9)

栄養士校外実習にみる意識の変化

管理栄養士の受験資格を取得するために実務が1年必要なこと、また、それに必要な栄養士の就職自体も少ないことが影響していると考えられる。

入学時に資格をとる理由、実習後に資格を生かす理由を尋ねたところ（表4）、入学時では「卒業後、栄養士の専門職につきたい」（50.5%）、「卒業直後でなくとも、いつか資格を生かした職業につける可能性があるから」（43.7%）が多いが、実習後では、「卒業直後でなくとも、いつか資格を生かした職業につける可能性があるから」（45.6%）、「卒業後、栄養士の専門職につきたい」（23.3%）、「資格を生かさなくても勉強になるから」（17.5%）と、その理由は変化し、「栄養士の専門職につきたい」が、実習終了時には入学時の半分以下となっている。管理栄養士に比べ、栄養士の資格を生かす道は狭くなっているため、実習後の理由は、就職活動などをおし、入手したさまざまな情報や栄養士という職を取り巻く状況を踏まえて、現実的な結果が現れているといえる。

表4 栄養士資格を取る理由・生かす理由

	人 (%)	
	入学時	実習後
栄養士の専門職につきたい	52 (50.5)	24 (23.3)
いつか資格を生かした職業につける可能性があるから	45 (43.7)	47 (45.6)
ただ卒業するより資格を持っていたほうが良い	4 (3.9)	14 (13.6)
まわりの人達（親など）のすすめで	1 (1.0)	0
資格を生かさなくても勉強になるから	0	18 (17.5)
楽にとれそうな資格だから	1 (1.0)	0

3) 栄養士の業種について

栄養士の専門職に就くとしたら、どの業種が良いか、入学時と実習後で比較した（図1）。入学時では、「学校」が圧倒的に多く、次いで「病院」、「スポーツ施設」、「研究所」や「公務員」である。実習後もやはり「学校」が多いが、「保育所」や「事業所」、「病院」、「スポーツ施設」も挙げられている。入学時には多かった「病院」や「研究所」、「公務員」が、実習後は減り、「保育所」や「事業所」を希望する学生が増えている。栄養士の専門職では、どの職場でも管理栄養士を望む場合が多く、専門職として勤めることを考えた場合、多くは委託会社や保育所等に勤務することが多い。このため、このような結果になったと考えられる。「学校」の人气が高かったのは、家庭科の教員免許を取得できることと、平成17年度より導入された栄養教諭制度の影響があると考えられる。調査を実施した学生は栄養教諭の資格を取得して卒業できる学生であり、少なくとも今後、就職できる可能性も秘めているからである。「学校」以外は前回調査でも同様の結果であり、現実的な回答が結果に現れているのではないと思われる。

4) 栄養士のイメージ

入学時と実習後に、栄養士の専門職のイメージをSD法により回答させた結果（図2）、入学時と実習後では、ほとんどの項目で違いがみられ、有意差もみられる。これは、実習に行ったことにより、具体的に栄養士という職業を捉えた結果が現れていると考えられる。

全体的には、「複雑な、地味な、せかせか」というイメージが強く、栄養士は1人職場であることが多いため、

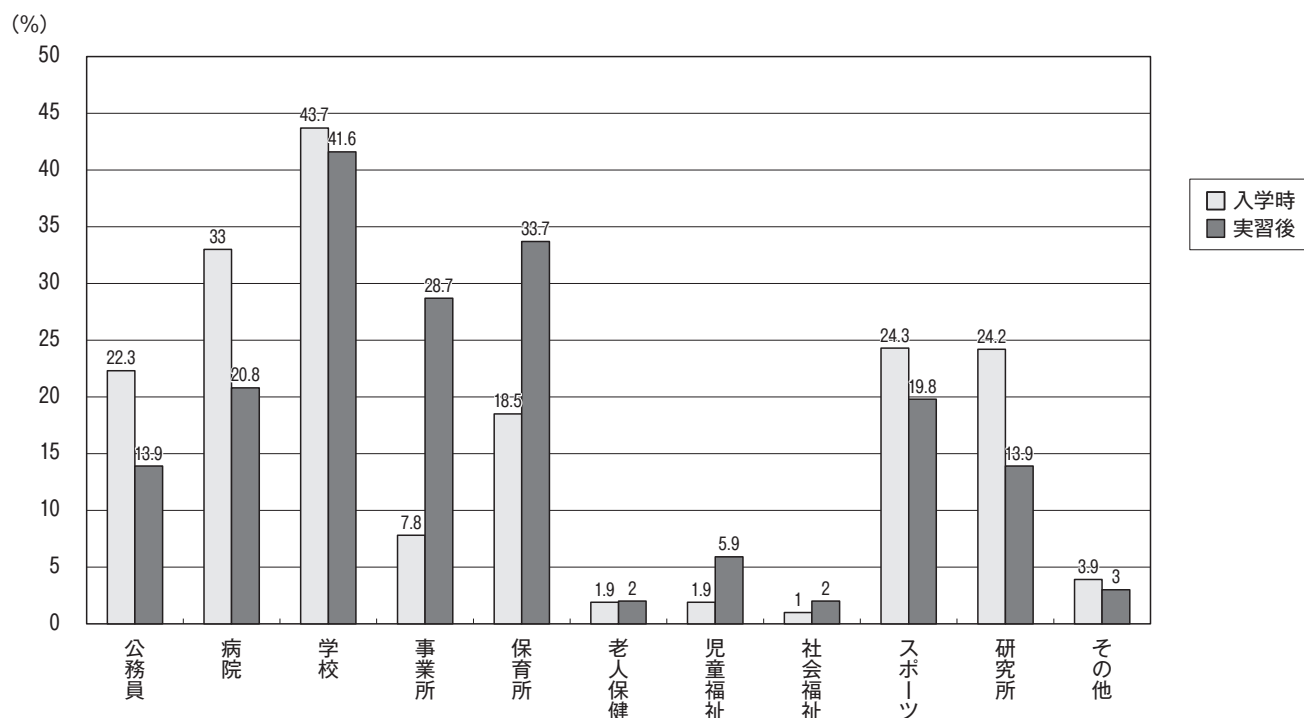


図1 専門職に就くとしたら

忙しく業務をこなす仕事という印象で捉えているようである。

入学時と実習後とを比較すると、「明るい、複雑な、あたたかい、地味な、楽しい、厳しい、近代的、活発的、せかせか」(P<0.001)、「スマート」(P<0.05)のイメージに有意差がみられた。全体的に実習後のイメージは、マイナス面のイメージがやや強くなっており、学生からみた栄養士とは忙しい大変な仕事であるという印象が強いようである。

5) 栄養士の仕事内容

栄養士の仕事内容について予想される業務を自由記述で回答させたところ、入学時では「献立作成」、「栄養指導・相談」が圧倒的に多かった。「調理」、「栄養管理」、「栄養

バランスを考える」が次に多かった。「栄養計算」や「商品開発」、「研究」、「フードコーディネーター」といった回答もあった。「栄養指導」では「料理の栄養分析やデータベースを基にして」、「栄養管理」では「病人、学生、スポーツ選手の」と対象者も書いてあり、より具体的に回答されていた。また、「調理」では「学校給食の」と限定するものも多くみられ、小・中学校などでの学校給食の影響も大きいことがうかがえた。その他にも「バランスのとれた食事の提供」や「病気の食事を考える」など、具体的に書かれていることが多かった。

実習後では、入学時と同様に「献立作成」、「調理」、「栄養指導」が圧倒的に多かったが、実習後とあって、その内容は「献立作成」では「献立の展開も含む、対象にあった

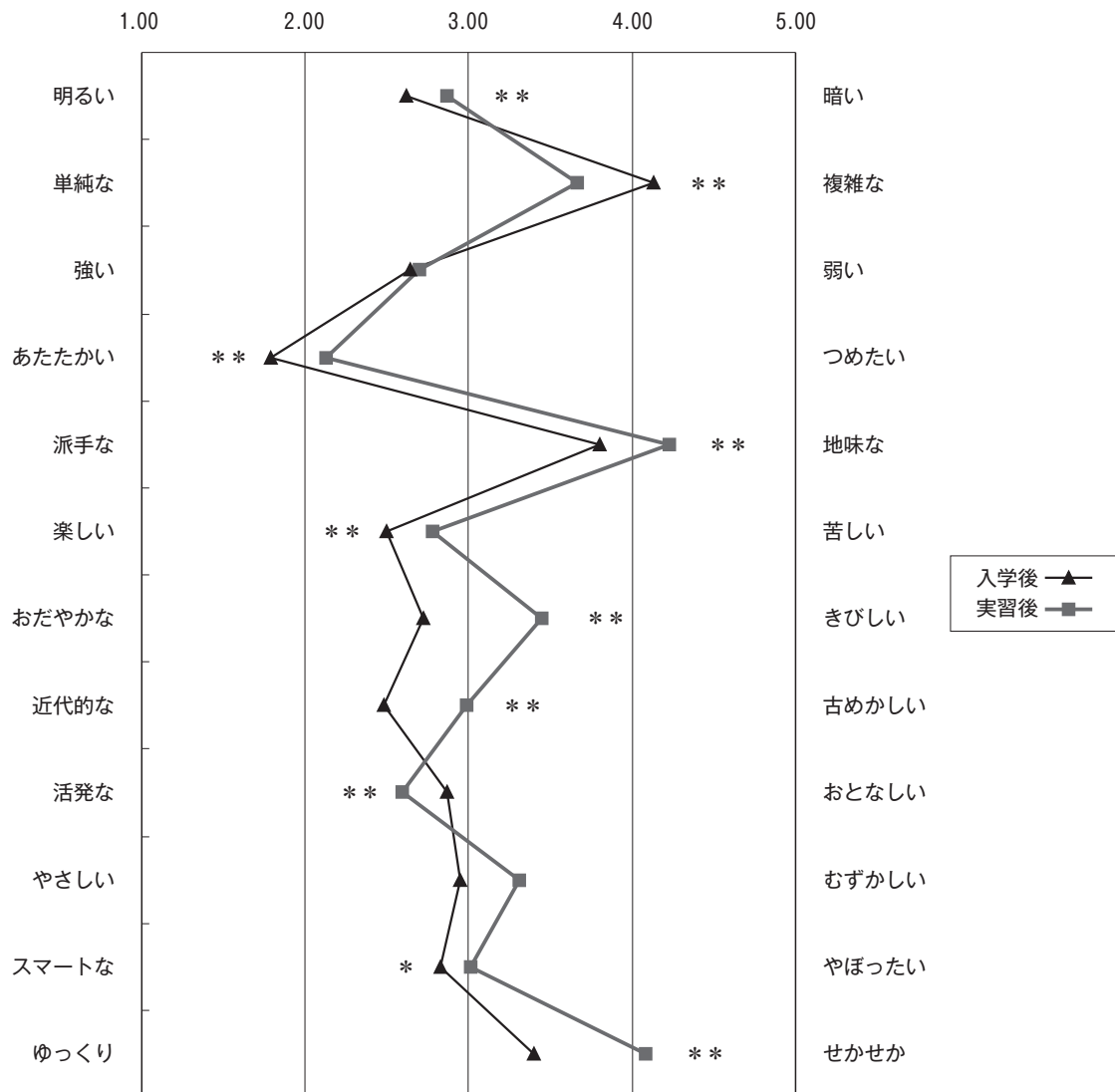


図2 栄養士のイメージ

メニューの開発」や「調理」では「調理方法の工夫」など細かく回答されていた。また、「人や利益などの総合的なマネジメント」、「衛生管理」、「食サービスの提供」、「現場の（調理師への）教育・指示」や「対象者にあった食事の提供」、「発注などの給食管理業務」、「各種書類の整理などの事務的業務」、「栄養知識・情報の提供」等、幅広く具体的に書かれている回答が多くみられた。実習に行った施設によって回答に多少偏りはあるものの、それぞれの実習において学んできたことがよく反映されている。前回の調査で短大生に回答してもらったものと比較すると、圧倒的に多い回答は入学時・実習後とも今回とほぼ同じであった。実習後の回答が学んできたことを反映し具体的に書かれていることも同じであったが、その回答内容には多少違いがあり、これは平成14年に新カリキュラムが始まり授業内容が少し変わったことも影響していると考えられる。

6) 実習施設と期間について

入学時には実習してみたい施設、実習後には実習したかった施設の結果を表5に示す。入学時には「学校」で実習を希望する学生が多く（30.1%）、「病院」（19.4%）、「保育所」（18.5%）、「スポーツクラブ」（16.5%）と続く。実習後では、「スポーツクラブ」（29.1%）、「学校」（23.3%）、「保育所」（14.6%）、「保健所」（12.6%）と順位の入替わりはあるものの希望する施設自体にほぼ変化はなかった。実際に校外実習に行く施設は、病院が4割を占めており、残りは事業所、保育所、学校へ実習に行っている。実習後では、実際に実習に行っていない施設（保健所、スポーツクラブ、会社）に希望があることがわかる。これは学生が就職や将来のことを考えたとき、興味のある分野の施設に実習に行ってみたくて考えているのではないと思われる。

実習を行いたい期間を尋ねたところ（表6）、入学時は「2週間」、次いで「1週間」を希望している学生が多いが、実習後は「1週間」が半数を占め、実際に1週間実習をしてきた結果、1週間が実習期間として妥当な期間と思ったことが推測される。

表5 校外実習の希望施設

	人 (%)	
	入学時	実習後
学校	31 (30.1)	24 (23.3)
保健所	4 (3.9)	13 (12.6)
病院	20 (19.4)	7 (6.8)
会社	10 (9.7)	10 (9.7)
老人保健施設	1 (1.0)	2 (1.9)
社会福祉施設	0	2 (1.9)
スポーツクラブ	17 (16.5)	30 (29.1)
保育所	19 (18.5)	15 (14.6)
	N.A 1	

表6 校外実習の希望実習期間

	人 (%)	
	入学時	実習後
1日	1 (1.0)	2 (1.9)
2~3日	14 (13.6)	10 (9.7)
1週間	24 (23.3)	57 (55.3)
2週間	37 (35.9)	26 (25.2)
3週間	13 (12.6)	4 (3.9)
4週間	6 (5.8)	3 (2.9)
2~3ヶ月	5 (4.9)	1 (1.0)
5~6ヶ月	2 (1.9)	0
	N.A 1	

7) 実習内容及び実習を行う時に必要だと思うこと

実習で、したいこと・したかったこと（図3）は入学時では「食事作り」が多く、「栄養士の仕事内容を知る」、「献立作成」と続く。栄養士の仕事内容で自由記述させたときにも多く挙がっていたように、食事作り（調理）や献立作成は栄養士の業務内容の一つとして、入学時から多くの学生が認識している。

実習後では「食べている人の様子を見る」が多く、次いで「食事作り」、「栄養士の仕事内容を知る」である。授業ではもちろん実習先でも施設によっては、喫食者の様子を見ることは出来ないで、自分が携わった食事に対する喫食者の反応を直接見て、喫食者によっては意見も聞いてみたいと思っていることがわかる。また、「食事作り」を意外と多くの学生が挙げているが、これは栄養学科に在籍していても普段、調理に携わる機会は少なく、実際に実習に行って、調理の技術や知識（切り方の名前や調理手順など）不足を感じて、この項目を挙げる学生が多かったと考えられる。

実習を行う時、自分に必要なこと・必要だと思ったこと（図4）は、入学時では「積極性」や「知識」、「目的」が多い。実習後でも「積極性」、「知識」が必要だと感じた学生は半数以上と圧倒的に多い。入学時ではそれほど必要だと感じていなかった「挨拶」や「体調をととのえる」、「協調性」といったことを次いで挙げている学生が多く、実際に実習を行って必要なことに変化が現れていることがわかる。また、どの項目においても入学時には考えられないほど、実習後には必要であると感じ、その意識が大きく変化していることがわかる。

8) 実習後の意識

実習後の意識として、実習を終えた感想（表7）は、「実習してよかった」（95.1%）が圧倒的に多い。「どうも思わない」（1.9%）、「他の施設でよかった」（2.9%）と思った学生もいたが、「しなければよかった」と回答した者はいなかった。

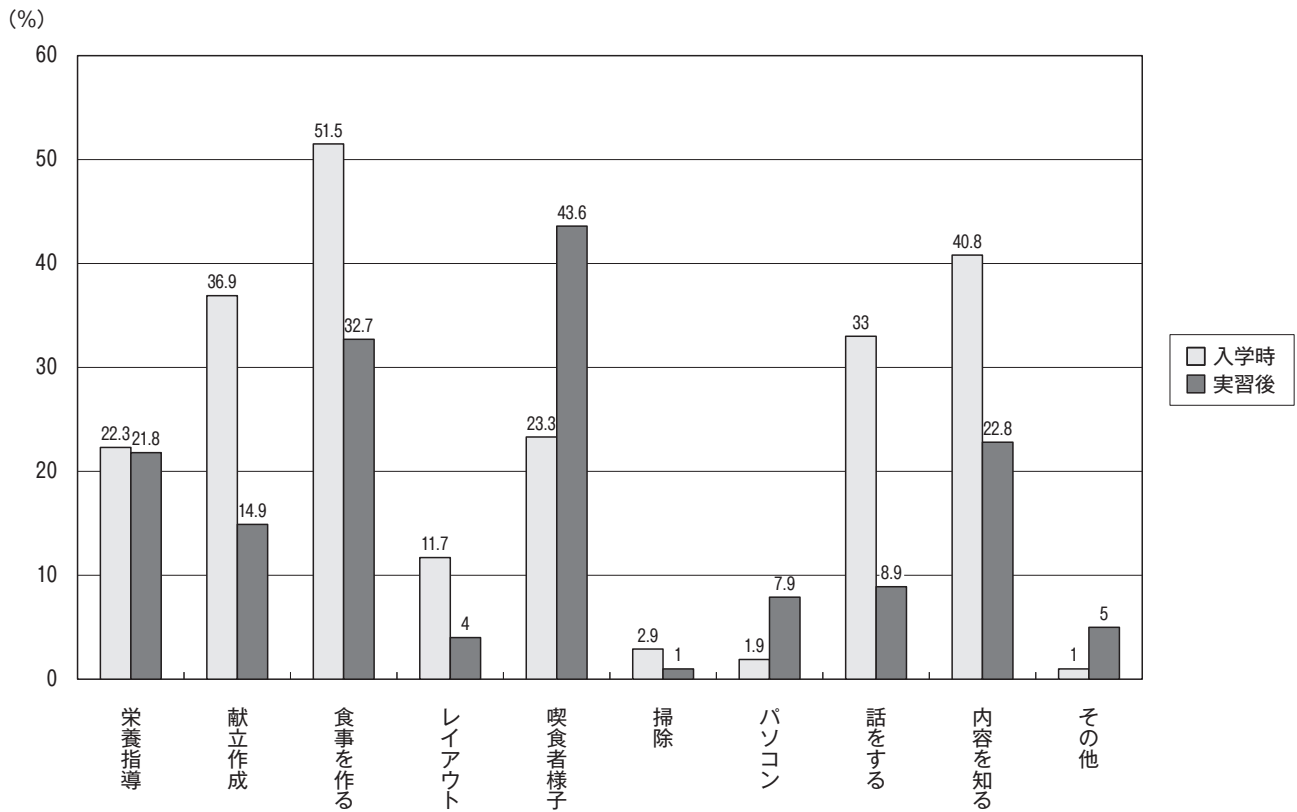


図3 実習でしたいこと・したかったこと

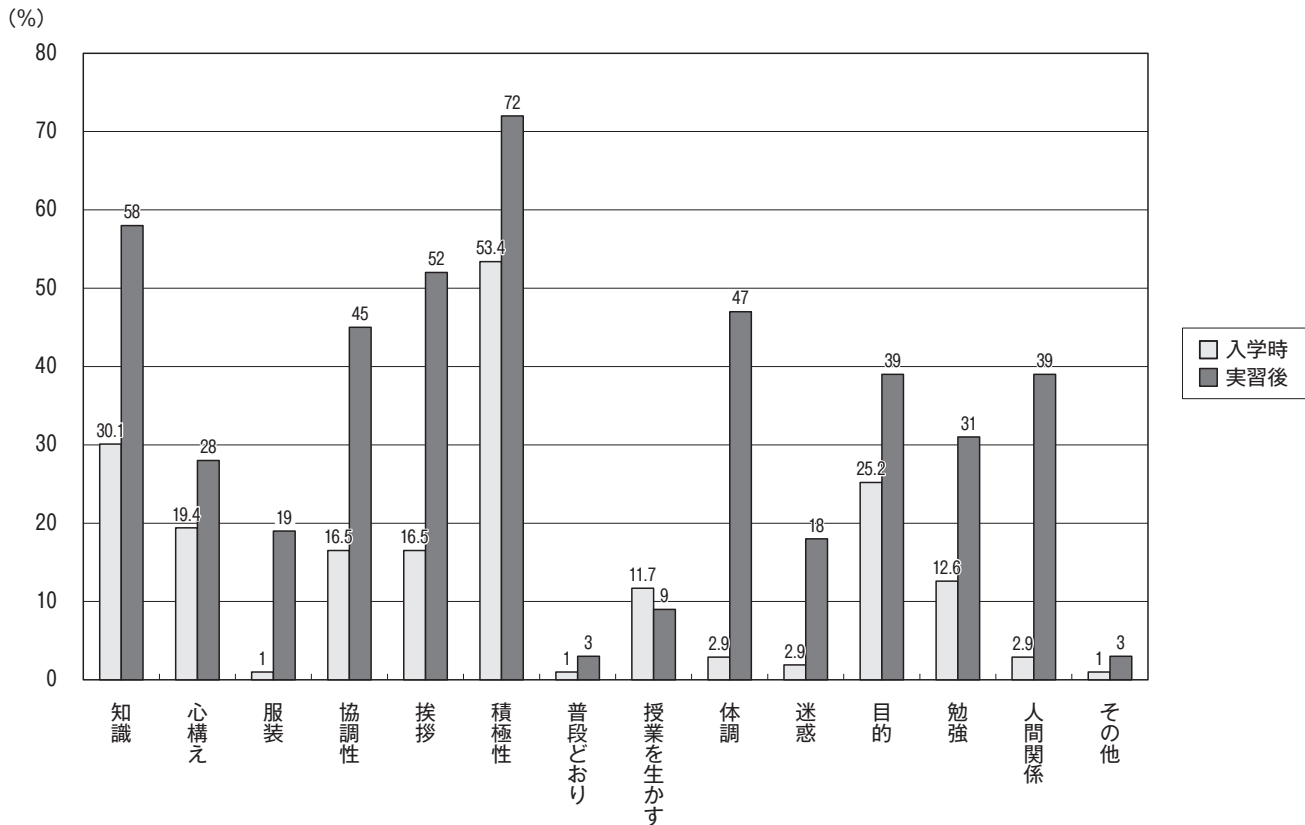


図4 実習で必要なこと

表7 校外実習を終えた感想

	人 (%)
実習してよかった	98 (95.1)
どうも思わない	2 (1.9)
しなければよかった	0
他の施設でしたかった	3 (2.9)

また、栄養学科で学んだ感想については、「入ってよかった」が97.1%と最も多く、「どうも思わない」は2.9%であった。「入らなければよかった」と回答した者はいなかった。卒業後、栄養とは違う道へ進む者もいるが、人が生きていく上で切り離せない「食」という分野を学び、栄養士の資格を取得できるということが、この結果にもつながっていると考えられる。さらに最初にも述べたように、入学時から目的意識をしっかりと持って入ってきていることもこの結果の一因となっていると推測される。

4. まとめ

栄養士を目指す学生の意識を知ることは指導をする上で有効であると考え、校外実習を中心に意識調査を行い、検討した結果は次のとおりである。

- 1) 栄養学科を選んだ理由は「栄養・食べ物に興味があったから」が8割以上であり、意識した時期は圧倒的に高校生の時が多く、興味を持ったきっかけは「料理が好きだから」「大学入試で調べていて」が多かった。意識した時期ときっかけでは「大学入試で調べていて」「その他」の2項目において有意に差が認められた。
- 2) 栄養士の資格をとりたい者は、入学時では100%であるが、実習後は96.1%であった。資格の種類では、入学時と実習後で「栄養士のみ」44.7%から59.8%、「管理栄養士もとりたい」が55.3%から40.2%と結果が逆転していた。また、資格をとる理由は「卒業後、栄養士の専門職につきたい」は入学時50.5%が、実習後は23.3%と半分以下になっていた。「卒業直後でなくとも、いつか資格を生かした職業につける可能性があるから」は入学時43.7%が、実習後は45.6%であり変化はなかった。
- 3) 栄養士の専門職に就くとしたら、入学時では学校が圧倒的に多く、実習後もやはり学校が多いが、保育所、事業所もかなり多くなっている。
- 4) 栄養士に対するイメージは、入学時と実習後では、ほとんどの項目で違いがみられ、有意差もみられた。「明るい、複雑な、あたたかい、地味な、楽しい、厳しい、近代的、活発的、せかせか」($P < 0.001$)、「スマート」($P < 0.05$)のイメージに有意差がみられ、実習後のイメージは、マイナス面がやや強くなっている。
- 5) 栄養士の仕事内容は、入学時、実習後ともに「献立作

成」、「調理」、「栄養指導」が圧倒的に多かったが、実習後では回答内容が幅広く具体的に書かれているものが多いとみられた。

- 6) 実習したい施設は、入学時と実習後で順位の入れ替わりはあるものの希望する施設自体にはほぼ変化はなかった。実習期間は入学時では「2週間」35.9%であるが、実習後は「1週間」55.3%であった。
- 7) 実習内容では入学時は「食事作り」が多く、「栄養士の仕事内容を知る」と続くが、実習後では「食べている人の様子を見る」が多く、次いで「食事作り」であった。実習を行う際に自分に必要なことは、入学時では積極性や知識、目的が多く、実習後でも積極性、知識を挙げた者は半数以上と圧倒的に多かった。どの項目においても実習後は必要であると感じており、意識が大きく変化していることがわかった。
- 8) 「実習してよかった」は95.1%と圧倒的に多く、「栄養学科に入ってよかった」も97.1%と多かった。これらの結果を栄養士実習の授業の中で役立てていきたいと考えている。

謝辞

稿を終えるにあたり、調査にご協力頂きました本学学生に感謝いたします。

参考文献

- 1) (社) 日本栄養士会ホームページ：<http://www.dietitian.or.jp>
- 2) 厚生労働省策定：日本人の食事摂取基準（2005年版）
- 3) 内閣府ホームページ：<http://www.cao.go.jp/>
- 4) 第一出版編集部編：食事バランスガイド
- 5) 厚生労働省ホームページ：<http://www.mhlw.go.jp/>
- 6) (社) 全国栄養士養成施設協会：全栄施協月報第566号，pp17～84，(2007)
- 7) 東京家政大学：大学で何を学び、卒業後どう生きるか2008，(2007)
- 8) 宇和川小百合，色川木綿子：東京家政大学研究紀要第44集，pp23～30，(2004)
- 9) 斎藤貴美子，井上節子：文教大学女子短期大学部研究紀要44集，pp17～28，(2000)
- 10) 山田芳子，福永峰子，梅原頼子，武田恵実：鈴鹿国際大学短期大学部紀要20，pp47～54，(2000)
- 11) 西村早苗，石田裕美，武見ゆかり，渡邊早苗，岡崎光子，太田和枝，吉田企世子，二見大介：女子栄養大学紀要Vol.34，pp115～121，(2003)
- 13) 堀尾拓之，山崎美津代，佐藤美穂，原宏枝：園田学園

- 女子大学論文集38, pp169~183, (2003)
- 14) 富田教代：常磐短期大学研究紀要33, pp57~63, (2004)
- 15) 粕谷美砂子, 佐藤美奈, 江口美紀, 蕨迫栄美子：学苑・生活科学起用No.794, pp78~84, (2006)
- 16) 高橋千恵子：研究紀要27, pp37~44, (2006)
- 17) 会田さゆり, 山本直子：函館短期大学紀要33, pp7~16, (2007)
- 18) 梅澤真樹子, 阿部雅里, 中井晴美, 飯田津喜美：三重短期大学紀要56, pp15~18, (2008)
- 19) 矢島麻由美, 児玉ひろみ：淑徳短期大学研究紀要第47号, pp17~33, (2008)
- 20) 会田さゆり, 山本直子：函館短期大学紀要34, pp9~20, (2008)

Abstract

Because knowing more about the views of students who aim to become dietitians can contribute to more effective instruction, an attitude survey was conducted and the findings analyzed focusing on students' off-campus training.

The proportion of students wanting to qualify as dietitians was 100% at admission and 96.1% following off-campus training. The proportion of students seeking to enter the profession, meanwhile, more than halved from 50.5% at admission to 23.3% following off-campus training. A significant difference in students' images of dietitians was observed between admission time and the period following off-campus training, with the negative aspects becoming somewhat more emphasized. Almost all the students surveyed were glad that they had received off-campus training and glad that they had entered the Department of Nutritional Science.